

-働き方改革ならぬ休み方改革？-

最近の報道で「ラーケーション」「ラーケーションの日」という言葉をよく耳にするようになった。ラーケーションとはラーニング(学習)とバケーション(休暇)を組み合わせた造語で、子供が保護者の平日の休暇に合わせて、一緒に校外学習に取り組める制度だとのこと。令和5年度から公立の小中高校等に順次導入される予定だとか。

愛知県が全国に先駆けて「ラーケーションの日」に取り組むというニュースが流れた。「働き方改革」と並行して「休み方改革」が進められているというが、休み方改革という言葉はあまり馴染みがない。子供と一緒に「ラーケーションの日」に活動することは保護者の休み方改革につながるのかも・・・。

では、「ラーケーションの日」に何をするのか？愛知発の新しい学び方「ラーケーションの日」ポータルサイトをのぞいてみると活動例が掲載されていた。「再発見！地域の史跡を巡ろう」「収穫の喜び 家族と一緒に農業体験を」「五感を使って 自然と仲良くなろう」など・・・何をしようか？という計画の段階ですすでに親子の交流が深まり、お互いに思いがけない発見があるのかも？今後も注目したい制度である。

(森)

バケーションと組み合わせた言葉。アメリカではママとバケーションを組み合わせたママケーションが3年ほど前から話題になり、今では広く認知されるようになっていくというニュースが流れた。少しの間子供や夫から解放されて自分たちのために時間を使いたいというママたちは数日のママケーションを心から楽しんでいるようだった。



ボランティア編集委員の編集後記

身内に不幸があった。亡くなって2～3時間後には葬儀屋と話しなければならない。「新聞に載せますか？」に、ぼーっとしていて広告の事と思い「いいです」と断った。そうしたら何も載らなかった。家族葬だからいいと思っていたが、故人は友人達に会いたかったのでは・・・(冷静になった今思う)

(梅)

今年の十五夜は「中秋の名月」と「満月」が一致したお月さまを見られるとのこと、今か今かと待ちわびたお月さまにしばし見入ってしまった。こんなにゆっくり月を愛でるなど何年ぶりだろう？ 幸せ～！

(森)

相田みつをの心の暦の一節に「そのときの出逢いが 人生を根底から変えることがある よき出逢いを」というのがあって、良き出逢いと感じた出逢いを何人かいますが、人生半分！まだまだこれからも・・・という思いです。

(のん)

※参画だよりは3名の市民ボランティア編集委員にご協力をいただいて発行しています。

編集発行

弘前市企画部企画課ひとづくり推進室 〒036-8551 弘前市大字上白銀町1番地1
電話：0172-26-6349(直通) FAX：0172-35-7956 E-MAIL：kikaku@city.hirosaki.lg.jp



参画だより

No.76
令和5年10月発行
弘前市企画部企画課

弘前市LGBTQフレンドリー企業登録制度の運用開始

弘前市では、「弘前市男女共同参画プラン」に基づき、「一人ひとりが互いを尊重し合い心豊かに暮らせるまち弘前」の実現に向け、すべての人が個人としての尊厳が重んじられ、互いに多様な価値観を認め合いながら、自分らしく生きられる地域づくりに取り組んでいます。

令和2年12月には「弘前市パートナーシップ宣誓制度」を導入し、性的マイノリティの方が安心して暮らせる社会の実現に向け、各種取組を進めており、このたび新たに、性的マイノリティに係る理解の促進や配慮した取組を行っている企業等を登録する「弘前市LGBTQフレンドリー企業登録制度」を創設し、令和5年10月11日から運用を始めました。

この制度の導入を契機とし、より多くの企業等で性的マイノリティに関する取組が推進され、多様な人材が活躍できる職場環境の整備につながることを期待するものです。

弘前市LGBTQフレンドリー企業
ロゴマーク



企業登録制度に関する情報は
こちらから↓↓↓



多様な性に関する展示とフリースペースの開催

青森県を拠点に、性の多様性を知ってもらうための活動を行っているサークル「スクランブルエッグ」と弘前市の共催により、「多様な性に関する展示とフリースペース」を令和5年8月22日にヒロロにて開催しました。

このイベントは、不安や悩みを抱えているが誰にも相談できず、孤立を感じている性的マイノリティの人たちが、性的マイノリティの当事者の人たちと交流することで、不安を軽減するとともに、必要とする情報の共有を図ることなどを目的で開催しています。

展示コーナーでは、メッセージやポスターの展示に加え、チラシやパンフレットの配布、関連書籍の紹介、関連動画の視聴を行い、約30名の来場がありました。

交流コーナーでは、約10名の参加者が当事者の方を交えて交流し、多様な性について理解を深める機会となりました。

今後もこのような場やセミナーなどを開催していく予定です。弘前市HPや広報ひろさきにて随時お知らせいたします。

配布リーフレット



展示コーナー



「未来が見つかる大学研究体験・企業体験」(理工系分野女性活躍推進事業)

この事業は、進路選択の岐路にある中高生を対象に、地域の大学で行われている理工系分野の研究体験や現役の大学生との交流を通して、理工系分野で活躍するイメージの形成や女性の理工系分野への進学を促進するものです。また、地域の中小企業での体験やそこで働く社会人との交流を通して、理工系進路を選択した先にある地域での就業イメージを形成し、地元定着率の向上を図り、地域が人を育てて地域に還元される仕組みづくりを目指しています。

-弘前大学研究体験プログラム-

今回は、令和5年9月2日に19名の中高生が弘前大学の「理工学部」と「農学生命科学部」を訪問しました。参加者は研究の体験や大学生との交流を通して、将来の大学生活を思い描いていました。

【研究体験①】「データの遅れを測定してみよう」

理工学研究科電子情報工学科 成田 明子 准教授

インターネットを通じて、文字や画像、音声をやり取りする際に、どのようにして目的地へ届くのか、また、どのようなことが起こるとどのような障害になるのか、実験や解析を体験しました。



【研究体験②】「血糖値を測定してみよう」

農学生命科学部食料資源学科 山元 涼子 助教

体内の状態を知るための指標となる血糖値をテーマに、脂肪分の多いエサを食べたマウスの血清（血液の液体成分）を使った血糖値の測定を体験しました。

-地域企業技術力体感プログラム-

今回は、令和5年8月2日～4日に渡って開催し、延べ21名の中高生が「株式会社ジョイ・ワールド・パシフィック」「株式会社環境工学」「株式会社栄研」の3社を訪問しました。

株式会社 ジョイ・ワールド・パシフィック (8月2日)

赤外線を用いた食品のカロリー測定やScratchというプログラム言語を使ったプログラミングによってドローンを飛ばす体験をしました。



株式会社 環境工学 (8月3日)

岩木川の水をろ過して、汚れ具合の指標となる浮遊物質の量やpH値の測定、悪臭を判定するための臭気測定や身近な生活騒音などを測定するなど、環境分析の体験をしました。

株式会社 栄研 (8月4日)

栄養士の仕事について話を聞いたり、お弁当の調理・製造過程の見学、食品冷凍のための真空パック処理などを体験しました。



きらめく人、ときめく心

☆今回のきらめく人 高木 恵美子 さん(高岡の森古民家カフェ「山の子」)

第9回目のきらめく人は、岩木山の麓で高岡の森古民家カフェ「山の子」を営む「高木恵美子」さんをご紹介します。「山の子」は、高照神社の近くにある築85年もの古民家をリノベーションしたカフェで、大きな梁や欄間に囲炉裏などの趣がある佇まいが懐かしく、心が癒やされます。地元の食材や発酵食材のほか、無添加にこだわったメニュー「山の子けの汁ご膳」がイチオシです。



○「山の子カフェ」を始めたきっかけ

2016年の弘前ビジネスアイデアコンテストに「古民家カフェで地域おこし by 高岡」という企画で応募し、グランプリを獲得したことがきっかけとなり、令和元年11月にオープンしました。また、高校を中退し、引きこもっていた料理好きの息子さんと一緒にカフェを営んでみたいと考えていたこともきっかけの一つのことです。

○現在のようす

現在は、カフェとしての営業に加え、地元の障がい者施設「ゆいまある」で作っているパンや手作りの小物を売り場に並べたり、ごきん刺しと津軽塗のワークショップを開催したりと交流の場にもなっています。また、息子さんは、日々の仕込みやメニュー開発に奮闘しながら、健康を考えた郷土食を提供しています。



○今後の方向として

今後について、次の4つを頑張りたいと高木さんは話していました。

- 1) 県外や外国の方々と食や文化の交流でつながっていききたい。
- 2) 高齢化農村集落の地域おこしの役割を担っていききたい。
- 3) 「ゆいまある」と共同開発した麴パンを定着させたい。
- 4) けの汁などの津軽の郷土料理教室を開催し、食育につなげていきたい。

*健康食と地域発展の場づくりに奮闘し、地元の伝統を大事にする高木さんは輝いていました。高木さんの暖かい笑顔とマスコットのねこちゃん達が玄関でお出迎えしてくれ、身も心も癒やされました。

(のん)



わたしと本『クスノキの番人』

著者：東野圭吾
発行：実業之日本社文庫

婿殿が忘れていったことが、この本との出会いだった。若者の読む本にも興味があり読んでみた。

事件を起こし、捕まった主人公（玲斗）の前に、突然、助けに現れたのは伯母（玲斗の母である美千恵の異母姉）の千舟であった。玲斗は、釈放の手助けをする条件として、代々伝わるクスノキの番人になる事を命じられる。

このクスノキは樹齢数百年もあり、願いが叶うパワースポットとして有名である。番人の仕事とは、クスノキへの参拝者の受付である。参拝者は、言葉だけでは表しきれない想いである「念」をクスノキに預けたり、「念」を受け取ったりする。クスノキの番人を行いながら、玲斗は様々な人に出会い、成長していく。

玲斗が9歳の時、美千恵は乳がんで亡くなった。本家の商売であるホテルの経営やクスノキの番人としての使命を優先して、美千恵との関係が希薄であったことを悔やんでいた。

25才ほどの玲斗が70才ほどのアルツハイマー病の千舟に箸の持ち方、姿勢の悪さを指摘されながらも歩み寄り、支え合っていく二人の物語。読み終わって懐かほんのり温かかった。

(梅)

